

科目名称：	乳児保育研究Ⅱ	
担当者名：	米川 祥子、山本 真里子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
<p>これまでの「乳児保育演習」「乳児保育実習」「乳児保育研究」で得られた知識や体験をもとに、個々が研究テーマを定め、その研究成果をまとめ、発表する。研究発表に至るまでに、0・1・2歳児の保育担当を想定した保育実践や問題提起に基づいた調べ学習やグループワーク等の演習形式で学びを深める。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> ●0・1・2歳時の保育実践を理解する。 ●子ども・保護者・保育者それぞれの立場で成長を理解しようとする姿勢を身につける。 ●乳児保育担当者を目指す者としての自覚をもつ。 ●自ら学ぶ姿勢を身につける。 		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP (1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	
DP (2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	
DP (3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP (4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身につけている。	○

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP (1)					0
幼児教育DP (2)					0
幼児教育DP (3)					0
幼児教育DP (4)			50	50	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》（米川） 臨床心理士（幼児相談）	《経験年数1》 16年
	《内容2》（山本） 保育士	《経験年数2》 41年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
理解度	授業内容を理解し、乳児保育に意欲を抱いている。	乳児保育者として望ましい対応を理解している。	乳児保育者としての対応の重要性を理解している。	乳児保育者としての重要性が何かを理解できない。
授業態度	授業の内容に興味関心を抱き、意欲的に取り組んでいる。	授業の内容に興味関心を抱き、課題をこなしている。	授業での課題をこなしている。	授業に興味関心を抱けない。
自身の考察	授業をふり返り、自分に引き付けて捉え、自分の考えを導き出している。	授業をふり返り、自分に引き付けて捉えることができている。	授業をふり返り、自分の思いを書くことができる。	授業をふり返り、内容の報告に留まっている。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 課題研究についてのガイダンス	前期「特化乳児保育」の復習をしておく	10分
第2回 アタッチメントの重要性について	前期のアタッチメントについての学習内容を確認しておく	40分
第3回 ソーシャルレファレンシングについて	ソーシャルレファレンシングについてのレポートを完成させる	30分
第4回 エピソード記録について	インターンシップ時に書いた記録を読み返しておく	30分
第5回 課題研究(調べ学習)	乳児保育についての課題を選択して文献研究を進めておく	30分
第6回 課題研究(調べ学習)	文献研究を進める	30分
第7回 課題研究(調べ学習)	文献研究を進める	30分
第8回 課題研究(個人まとめ)	文献研究をレポートとしてまとめておく	30分
第9回 課題研究(個人まとめ)	文献研究や現場体験をもとに個人研究として論文を書いておく	30分
第10回 課題研究(個人まとめ)	個人研究のまとめを進めておく	30分
第11回 課題研究についてのカンファレンス	個人研究を校正する	30分
第12回 課題研究についてのカンファレンス	個人研究を校正する	30分
第13回 課題研究仕上げ	個人研究を仕上げる	30分
第14回 成果発表会に向けての準備(各自の研究内容についてプレゼンテーションを実施する)	プレゼンテーションの練習をしておく	30分
第15回 成果発表会に向けての準備(各自の研究内容についてプレゼンテーションを実施する)	メンバーの発表文についての質問事項や評価を準備する	30分
事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。 また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。		
成績評価の方法・基準		
定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。 授業への積極的態30% 提出物50% 授業内での発表20%		
課題に対するフィードバック		
各課題に対して、その都度コメントシートでフィードバックする。 最終課題は、全員に返却する。		
教科書・参考書		
<教科書>「乳児の発達と保育」 エイデル研究所 「はじめて学ぶ乳児保育」 同文書院		